

「自然の調べ方」に関する 市民団体へのアンケート結果

浜田 崇・小澤ゆきえ

今年度のメインテーマ「みんなで取り組もう、自然の調べ方」に沿って、さまざまな調査のコツや調査データの活かし方などのアイデアをなるべく多くの方と共有したいと考えました。そこで、事前に県内で環境保全の活動に取り組まれている団体のうち、当所で把握している190の団体へ、自然の調べ方に関するアンケートの依頼をしました。アンケートは6月に実施し、51の団体から回答をいただきました。

質問1 自然を調べるうえで、困っていることや「こんな情報が欲しいゾ!」ということがありましたら、自由にお書きください

回答 もっとも回答が多かった内容は、調査方法を知りたい、道具を借りたいといったものでした。中でも水質や水生生物の調査に関するリクエストが多いのが特徴的でした。そのほか、希少種や外来生物の分布や生態に関する情報が知りたい、あるいは調査をするときに指標となる生物の選び方や種の同定が難しい、さらには調査に伴う許可手続が大変、他の団体の活動情報が知りたいというものもありました。

質問2 これからの環境保全のために、特別な専門家ではない市民が取り組める活動として、どのようなことがあるか、アイデアがありましたら教えてください

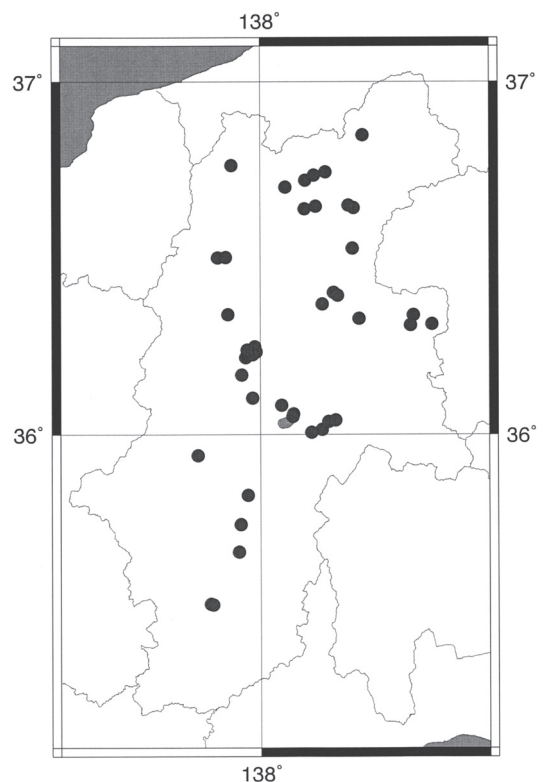
回答 身近な自然の調査、特に長く観察を続けるモニタリングについての回答が大半を占めました。モニタリングの方法については、市民参加型の全県一斉調査や中学生との連携など具体的な提案もありました。次に多かったのは、観察会や研修会の実施でした。そのほか、市民同士のネットワークの拡大や草刈りなどの環境整備などがあげられていました。

ここでは、このアンケートの回答を整理した結果についてご紹介します。

これらのほかにも多くの回答をいただきました。中でも団体同士の交流や発表の場がほしいといった、市民同士のヨコのつながりを望む声が目立ちました。「環境保全に取り組む市民大集合」という年1回のイベントが、市民の方々の活動発表や交流の場として役立つよう今後も続けていきたいと思えます。

質問3 「市民が調べた結果をこんな風に活用できたらいいな」というアイデアがありましたら、教えてください

回答 自分たちの調べた結果を何らかの形にして、それを伝えたいという回答がほとんどでした。具体的には、調査した結果の行政への情報提供、生きもの情報（分布やリスト）の整理、ガイドブックの作成、さらには結果の発表などとなっていました。



図：回答をいただいた県内団体の分布